

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2012/10/13 実施)～

◇気候・風景・印象

風にゆれるオギ



夏に草刈した場所には、オギが穂をだし風にゆれていました。隣の草刈していない場所とくらべると背の高さが違います。穂も隣のオギはもう盛りの穂、こちらの穂は今でたばかりの若い穂とちがいがよくわかります。両方の穂が風にゆれている様子を、しばらく皆でながめました。

吹く風にゆれ、色が変わり美しい！メシベ、オシベもしっかり見ることができました。



草原には、クビキリギス、ショウリヨウバッタ、イナゴ、コオロギなどがとびかっています。アカトンボもやってきましたが、先月にくらべトンボは少なめでした。

ジョロウグモはあちこちに糸をかけて獲物をねらっていました。隣通し、くっつきそうにかけている巣もあり、クモの世界も条件の良い場所は競争なのでしょう。坪単価はおいくら？クモさんに聞いてみようかな？

クビキリギス⇒



◇生きもの

マツカサススキ



カヤツリグサ科ホタルイ属の多年草。名前の由来は小穂が集まった花穂を松かさに見立てたもの。名前からススキの仲間と思うが、カヤツリグサの仲間である。花穂は20~40個の小穂から成り丸みを帯びている。



ミゾソバ

金平糖のような花でピンクの小さな花が集まって、かわいらしい。

ピンク色の花がきれいでした。白色の花も見られます。今回まだ少ないような気がしましたが、これからもっと花盛りになるでしょう。一面に咲いた様子はみごとです。



ミゾソバの花が満開になってきました。小さい花が丸く集まっている様子から、コンペイトウグサというよびかたもあるそうですが、可愛いですね。この公園には、数か所に群生してありますが、ピンク色の濃い花が咲いている所、少し薄い色の花が咲いている所、殆ど真っ白と言っていいような花が咲いている所と分かれているのが面白いです。



キクイモ

キク科ヒマワリ属の多年草で江戸時代に北米から来た。名前の由来は花が菊に似ていること、地中に塊茎をつくることからつけられたもの。花期は9~10月。群生していると目を楽しませてくれるし、意外にかわいいところがある。

イヌタデ

タデ科タデ属の仲間が一番ありふれたイヌタデをあえて取り上げた理由は、これまで花が開いたイヌタデを見たことがなかったこと、花後も紅色がしばらく残り、その後白色になって黒色のタネを飛ばすことをつぶさに観察できたことにある。今までどうして花期が長いのか疑問であった。



ヒメジソ



イヌコウジュ



ヒメジソもかわいらしい花をつけて、盛りになりました。イヌコウジュの出ている場所ですぐそばにヒメジソも出ていて、両方を比べられました。全体にイヌコウジュは赤っぽく、葉の匂いも強いです。根木内にヒメジソはたくさんありますが、イヌコウジュの出る場所は今のところ一か所です。草刈のとき注意をしてくださったおかげで、今回両方を観察できました。

次回の根木内歴史公園の湿地の観察会は **11月13日(火)** に行います(小雨決行)。**9:30** に公園駐車場に集合で、昼まで観察を行い公園内で昼食を食べます。去年は春に咲くはずのアリアケスミレが11月に咲いていました(狂い咲き)。今年はどうでしょうか？

お問い合わせ(千葉大・相澤)

E-mail: akihitoaizawa@gmail.com

2012/10/31 作成

編集: 相澤*

参加人数: 8名+1家族(計12名)

*この観察日記は参加者からいただいた感想を基に作成しております。